

# 審議会等議事概要

平成29年度 滝川市保健医療福祉推進市民会議 第3回計画策定専門部会 議事概要

日 時	平成29年10月19日（木曜日）午後6時00分～午後7時10分
開催場所	滝川市役所 8階 大会議室
出席者	<p>男澤部会長、椿坂副部会長、八重樫委員、岸部委員、齊藤委員、泉田委員、鶴巻委員、眞島委員（欠席：宮腰委員）</p> <p>事務局：國嶋保健福祉部長、黒川介護福祉課長、森健康づくり課長、土橋介護福祉課課長補佐、木村同課介護保険係長、橋本同係主査、伊藤同係主事、西尾同課介護認定係長、庄野同課高齢者福祉係長、相澤同課地域包括支援センター副所長、白石健康づくり課課長補佐、村井同課健康増進係長、澤田同課予防推進係主査</p>
議 事	<p>1 開 会</p> <p>2 部会長挨拶 男澤部会長から開会にあたって挨拶があった。</p> <p>3 議 題 (1) アンケート調査の結果について 事務局から資料に基づき説明を行った。</p> <p>委 員) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について、高齢者に対して実施したということだが何歳以上を対象としているのか。 事務局) 65歳以上を対象に実施した。</p> <p>委 員) 調査対象とした年齢層は各年代ごとに割り振っているのか。 事務局) 年齢層や地域などバランスよく割り振った。</p> <p>委 員) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果の「地域住民による地域づくり活動への参加意向」について、参加してもよいという割合が多く驚いた。それを受け皿としてやっていかなければならないのは地域だと思う。今後町連携としても積極的に役割を果たしていきたいと感じた。</p> <p>部会長) 第7期計画を策定するにあたって、「地域における支え合い」をどうするかということが重要となってくる。様々な団体の協力が必要となってくると思うが、その中でも町内会や老人クラブなどにどのように関わっていただけるかということが重要であり、委員の皆様には是非計画に反映できるようにいろいろな方策のアイデアを出していただきたい。</p> <p>アンケートを実施してみると一定のニーズは分かるが、除雪など北海道特有の課題に対する設問がないなど、滝川市の現状が分からない部分もある。</p>

どうしても独居高齢者や高齢夫婦世帯が多い。高齢夫婦世帯の一方が亡くなると独居高齢者となり、独居高齢者の方が増えてしまう。そういった方々をいかにして支えていくのか。アンケートの結果を踏まえ、どのように今後第7期計画に反映させていくかということが問題であると感じている。

委員) アンケートの結果が全国平均よりも良いような要因は。

事務局) 良いところもあれば、悪いところもある。良い部分の要因としては地域で取り組んでいる「いきいき百歳体操教室」などの集まりが介護予防としてはもちろんであるが、長年やってきてサロンのような集まりになっているということもあると考える。介護予防の活動というのはなかなか数値として効果の分析が難しいことから、明確に要因はこれだということは申し上げにくい。

委員) 町内会長になり何年にもなるが、私の地区では140戸くらいあり、高齢化率が50%を超えている。そのため万が一にかあったときに手助けしてくれる方が非常に少なくなってきた。これまで助けてくれる立場であった方々が年齢を重ねてこられて今度は助けられる立場となってきた。

委員) 高齢化率は地域によって高いところも低いところもあるが、中空知では40%弱程度であったと記憶している。「地域住民による地域づくりのための活動への参加意向」について、概念としては非常に高い結果が出ているが実態としてはどうかということも踏まえ、今後の課題として捉えた方が良いのではないかと考える。

## (2) 第7期計画の方向性について

事務局から資料に基づき説明を行った。

委員) 認知症の施策はどこの地域においても重要な課題であると考え。最優先課題の中に含めても良いのではないかと考える。

事務局) 認知症施策は非常に重要な課題であると認識している。市民の皆様にも参加していただきながら認知症カフェなどの様々な取組を進めている。資料9の新たな課題ということでは表現していないが、深化・充実させながら引き続き取組を進めてまいりたいと考える。

委員) 地域ケア会議はどのようなものを想定しているか。

事務局) 個別具体的な事例を関係機関等の方々と議論・解決し、地域としての特性・課題の分析に生かすという個別の会議については現在も実施しているが、その個別会議のほかにも全市的な解決を図っていく地域ケア推進会議も国の制度で整備して進めていくこととなっている。

委員) 生活支援サービスの体制整備事業に協議体の設置とあるが、滝川市としてはそういったものと連動したような動きをイメージしているのか。

事務局) 様々な取組が一体となって支え合いの仕組みなどを作っていくというイメージである。

委員) アンケートを実施して、滝川市の現状をどのように捉えているのか。

事務局) 団塊の世代の方々が60歳代である今からいかに介護予防の活動に取り組

んでいくかということが肝要であると考えている。従前から推進している「いきいき百歳体操教室」は、行政主導ではなく地域の皆さんの自発的な運営・活動を行っていただいている。アンケート結果で参加意欲が高いということもあり、そのような自発的な取組が地域における支え合いの仕組みづくりの一つのカギになっていくのではないかと考える。

委員) 市内で独居高齢者・高齢夫婦世帯が多いなど様々な問題があるが、今後どのようなところが問題となると考えているか。

事務局) 在宅で生活していくということが一番大きい流れの1つである。小規模多機能型居宅介護という訪問・通所・泊りを一体的に行うサービスがあるが、利用者ニーズ合せて対応できるということで有効であると考えている。

また、在宅での一番の課題としては、訪問看護など医療と一体となった部分を地域としてどう見ていくか、看護師の人材不足もあり非常に大きな課題となっているが解決策が見えてこない難しい問題である。

委員) 地域包括支援センターとして日頃から様々な相談を受けていることと思うが、課題と感じていることは何か。

事務局) 日頃の相談や地域ケア会議の中ではやはり認知症の相談が多く、課題となることが多いと感じている。また、引きこもりについても、例えば、現在は健康な方でも、今後独居となったときに地域の方とつながりがあれば支え合いにより救われることも可能となるが、つながりができていない方については、いかに地域に出て、周囲の方々とつながりを作っていくかということが課題であると感じている。

委員) 滝川市は各種の介護サービスは充実している状況なのか。例えば、訪問看護は難しいかもしれないが、訪問入浴やデイサービスなどのサービスは希望すれば大体利用することは可能な状況なのか。

事務局) 主だったサービスは希望により利用可能な状況である。しかし、訪問入浴については、昨年2か所あった事業所が従業員の確保が難しいなどの要因から1か所減となると聞いている。サービスを利用できないという状況ではないが、従業員の確保が難しいといった影響も出ている状況である。

委員) そのほかに滝川市の現状ということで何かあるか。

事務局) 地域包括支援センターの認知度が7割弱まで上がってきているが、先ほど説明にもあった引きこもりの方のことも含め、サービスを利用しているかどうかに関わらず、相談先としての地域包括支援センターの認知度を高めていくことも重要であると考えている。

委員) 介護保険サービスの男女別の利用状況はどうなっているのか。

事務局) 女性の利用率が高くなっている。女性の平均寿命が長いということもあるが、配偶者としての奥様方が男性を献身的に介護されているという傾向が強い状況である。利用率は男性が約34%で、女性が約66%となっている。

委員) 認知症カフェは滝川市内にあるのか。また、実施主体は。

事務局) 市内に5カ所ほどあり、全て民間で行っており、介護サービス事業所で行っていただいている所が多い。開催頻度については月1回程度となってい

る。

委員) いきいき百歳体操教室など取組は進めているが、地域格差という課題があると思う。10年後、65歳未満の働いている人と65歳以上の高齢者の比率が逆転してしまう。システムはシステムで発展させないといけないし、制度は制度で進めていかなければならないと思うが、そこに住んでいる人たちが安心して暮らしていくために地域格差をいかに克服していくのかということも大切なことだと考える。老人クラブや町内会は今でも役員の担い手がなく困っているが、10年後はさらに危機的な状況となるだろう。少子高齢化が進みこれまでの日本では味わったことのない状況になると感じている。福祉関係者だけが集まって今後の福祉を解決できるということではないだろう。地域におけるボランティアについても概念としては必要であると皆が感じているが、実態としては難しい。だからこそ、今が運動論的に取り組むべきぎりぎりの時期であると感じている。市役所が各部の枠を取っ払って議論を進める必要があるくらい大きな課題なのではないだろうか。

委員) いかにしてうまいソフトを作り運用していくのかということが重要であると思うが、このソフトを作るといことがなかなか難しい。地域格差といっても、地域で求められていないできないことまでやる必要はないのだろう。例えば、いきいき百歳体操教室はかなり広まっていってうまくいっているとすればもっと進めていけば良いが、ほかの滝川に合わないことがあればそれは残念ながら切り捨ててしまうということをやうまくやっていくしかないのだろう。各部の枠を取っ払って進めるということは現実的にはなかなか難しいことかもしれない。

事務局) 資料にも記載されているが、共生型サービスと国が謳いながら、例えば、地域ケア会議などのような同じような趣旨と目的をもった会議・協議体を障がい分野や子育て分野などにもそれぞれ設置するよう国から別建ての求めがおりてくる。このようになかなか一足飛びには行かないかと思うが、少なくともこの小さなまちの中で連携できるものは当然連携していきたいと考えている。

委員) 国は形式的に計画を立てさえすれば概ねOKというようなところがある。そしてその後には会議を何回か開催すれば良いというようなこととなる。しかし、滝川市としてはきちんと運用できるような計画を立てることが第7期計画の策定にあたり大切だと考える。続けられるようにということが一番重要なことで、あまり大きな目標を立てても続かなくては意味がない。そういうところをうまく作り「滝川って良いところだ」と感じてもらって人がいなくならないようにすることが大事なのではないか。

委員) 滝川市は介護保険サービスの種類も多く、現在も栄町3-3地区の施設整備を行うなど受け入れ体制としては整っているまちである。介護サービス事業所として不安に思っていることは、先ほどのご意見にあったように今後どこまでどのような状況になっていくかということである。担い手が少ないというよりも、やはり賃金のことや土日祝日に休みではないところを若い人

	<p>たちが好むかということだと考える。また、高齢者が増えているといっても元気な高齢者もたくさんいる。そこを行政がどう見てくれるのか。介護予防の視点で考えられているのであれば、それぞれの人の役割ということが重要であるように感じている。そういうことが先ほどから出てきている認知症の関係などいろいろとつながっていくのではないかと考える。</p> <p>委員) 財政的な問題もあり国が長期的な視点に立っていない。だからこそ皆が不安になるのかもしれない。</p> <p>委員) 第7期計画で決められたことを実施してみて、実際にどのような問題点が生じるのかということを検証するというのも一つの方法かもしれない。国が決めたことをやってみて実際にどういった部分に歪みが出るのか、あるいはどういったことがうまく機能するのかなどということを経験期間で評価して次の計画につなげていくことができるのであれば、滝川市で働く人にとっても安心につながるのかもしれない。介護保険費用が膨らむということも現実だが、移住定住などどこにお金を使うのかも考えなければならない。</p> <p>部会長) 次回の進め方について、この会議は町内会や老人クラブなど地域の中心となる団体の代表の方にもご参画いただいていることから、先ほど話に出たような地域での支え合いをどのように考えていくのか、少し範囲が大き過ぎるように思うが国からは中学校区を1つの区域としてということも示されていたが、それだと町内会ではどのようにして支え合いをしていくのかなど宿題としてご検討いただき次回話し合いたいと考える。</p> <p>たくさんいる65歳以上の健康な高齢者にどのような役割を担っていただくかということや、地域での支え合いの単位として中学校区が大き過ぎるとすれば小学校区ということが良いのかということなどもポイントになるかと思う。</p> <p>4 その他  次回会議日程について、11月の開催を予定し、日程決定を部会長に一任した。</p> <p>5 閉 会</p>
<p>会議資料</p>	<p>会議次第</p> <p>資料1 第7期計画策定に向けた調査の結果について</p> <p>資料2 アンケート調査結果(概要)</p> <p>資料3 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の分析</p> <p>資料4 在宅介護実態調査の集計結果(単純集計版)</p> <p>資料5 在宅介護実態調査の集計結果(クロス集計版)</p> <p>資料6 サービス事業者アンケート集計結果</p> <p>資料7 介護保険制度の改正について</p>

	資料 8 国指針の項目に係る新旧対照表
--	---------------------

	資料 9 第 7 期計画の方向性について
--	----------------------